

## ドロミテから再び南下 G さんのお宅へ

堺市 H.N

2012年8月20、21日 イタリア トレノ

地図ではすぐそばまで highway があるはずなのだが、うちのナビは全く異なった山道を指示する。おかしいおかしいと思いつつ、思い切ってナビの指示を拒否する勇気もなく「あつてんのか？」と不安をかかえつつ数時間ひたすら山道を走る。そしてやっと開けた道に出たと思えばナントナント highway に平行した道路だった。そこからモダラダラとそのバカナビの指示を振り切れず、右手 highway を「なんでやねん？」と心で悪態をつきながら、やっと近くまで。それからが大変、ナビ通りに何度も同じ所をグルグル。もうアカンと思い「到着しました」とナビが言う地点のレストランへ。そこでラッキーなことに駐車場にパトカーを発見。彼女の住所を持って dash。そのお巡りさんは、英語がダメ。最終的に「ついて来い！」そして無事到着。おまわりさん自ら Giuliana Pellizzari さんの部屋のチャイムを押して我々の事を報告。Giuliana さん驚いたやろう。すみません。そして部屋に案内されたのだが、またまたナントナント、そのベランダの真ん前が police に尋ねたレストラン。ごめんね、ナビ！あんたは大体あつてたんや。そやけど玄関側を教えてくださいな。ベランダ側ではわかれへん。

2K のアパートメント。私たちのために彼女の寝室をあけてくれている。故に彼女は living room のソファで寝ることになる。これまでも子供部屋を空けてくれたり、我々が居間の簡易ソファベッドで寝たりしたことは何度もあったが、ホスト自身のベッドを空けてくれたのは初めてだ。感謝！夕食はもちろんパスタ、そして生ハムとメロン。イタリアへ来たらぜひこの組み合わせを味わいたいと思っていたのでとてもうれしい。元気な蚊と戦いながらも楽しい食事を。しかし、この国では余り蚊には頓着していない。Why?

夕食後街へ。ボンヤリした灯りが旧市街を美しく浮かばせる。中世の綺麗な建物の中でムッソリーニが作ったという建物だけが無機質ではあるが堅固に存在をアピールしていた。この街のあっちこちに飲み水の噴水があるので、飲み水をわざわざ買い求める必要が無い。夜10時まで座って何か飲もうという事となったが、歩道いっぱい張り出したカフェはどこも満員。こんな時間でも老若男女がこんなにウロウロしているんだなあ。とビックリ。(私はあまり日本でも夜の都会の中心を知らない。)

夜、寝るのには暑すぎる。何度位だろう？窓を開けると蚊が入るのだが背に腹は代えられない。ボリボリあっちこち掻きながらブーン音が寝られへんなあと思いつつ、窓全開で寝てしまった。

翌朝、いつの間にか彼女の相棒が帰って来ていた。ミラノで働いていて、週末に帰ってくるのだそう。その彼は居間でごろ寝だった。すみません。

翌日、イタリアで一番大きいというガルダ湖へドライブ。昨日の道の両側にリンゴの森が(?)ずっと続いていたが、今日の道にもリンゴが一杯。昨日からずっとこのリンゴで作られたジュースを飲みたかったんだ。途中でリンゴ直売所に立ち寄り念願のジュースを。しばらくたてでとってもおいしい。

週末だったので道路は混雑。でも少しもイライラすることなくガルダ湖へ到着。しかし駐車場が満車。ずいぶんウロウロ探して、はしこのパーキングがやっと見つかった。この辺からは海が遠いせいか、湖の周囲は海水浴客でいっぱい。ヨット学校もあり、波の穏やかな午前中の湖にはヨット新米生の苦戦する姿が気持ちをホッコリさせてくれた。

この旅の1日目で荷物を盗られたので、着替えや洗面具が不足している。その旨を述べて買い物

に行こうとしたが、彼女があげると言う。日曜日ほどの店も休みなのだ。あまり着ないと言ってくれたポロシャツやTシャツ。それにビックリしたことに下着も。みんなお古だけど前からずっと私の物みたいにすぐ馴染んだ。これらは今夏の旅行中、そして今も重宝させていたでている。その下着を身につける度に彼女を思い出し、「大好き！」と思うのだ。

